

# 前期中間試験をふり返って

織田：みなさんこんにちは。

**Prince Kochan's Production** 情報調査部の織田真理（おだ まり）です。

芳賀：みなさんこんにちは。

同じく **Prince Kochan's Production** の出版事業部の芳賀 唯（はが ゆい）です。

織田：これからちよくちよく学級通信にも登場すると思うのでよろしくね。

さて、今日私たちが登場したのはほかでもない、先日の前期中間試験の2年4組の振り返りをしてみたいと思います。

今日は教育評論家の柳瀬 明之進（やなせ あきのしん）先生をお迎えしています。

柳瀬先生よろしくお願ひします。

柳瀬：こちらこそよろしくお願ひします。

織田：さて、前期中間試験のふり返りということで、度数分布表の裏にはテストの学年の振り返りが載っていましたね。

今日はまずそのことからお話を伺いたいと思います。

柳瀬：はい。ズバリ「テストは返されてからどうやり直すかが大切です」もうこれにつきますね。

詳しくはこのプリントを読んでもらえればいいのですが、どうも見ていますと、テストもたら何もそのあと見直しをしない人がいます。しかも、テストにしても点数のことしか見ていません。

同じ80点でもいったいどこが違っているのかによって、今後ののびがぜんぜん違います。

織田：と言いますと？

柳瀬：たとえば数学で言いますと、同じ80点でもまちがえているところは人それぞれなんですね。

ところが大部分の生徒たちは単に同じ80点だとしか思っていないんです。

親にしてからがそうです。いったい何点だったの？これしか我が子に聞きません。

これではのびませんね。

そして子どもも点数にしかこだわらない子にな

ります。

芳賀：つまり、どういう点にこだわればいいのでしょうか？

柳瀬：一言で言うと「質」ですね。

どのような間違い方をしたのかなのです。

難しい問題が解けなくて60点の時と、わかっていながらちょっとした計算ミスで60点の時にどちらも同じように見えています。

芳賀：つまり「60点」なら同じだというわけですね。

柳瀬：そうです。

そのような見方しかできない場合には、結果的に伸びていきません。

たいていは親子して点数がどうだったかのみに関心がいきがちです。

これではだめですね。

織田：そうですね。

テスト返ししても、たった1点を上げてくれとか、もう1点どうだとか、そんなことばかり言う生徒がいますね。

柳瀬：問題は「1点」ではありません。

その1点がなぜ取れなかったのかなのです。

そういう意味で、返ってきたテストをどうふり返るかがとても大切ですね。

織田：ではそろそろ前期中間試験全般についてお話を伺いたいと思いますが。

柳瀬：学年の平均点から考えますと、今回はできがよかったと言えるでしょう。

これくらいが理想的な平均点ですね。

芳賀：総合の平均が63点でしたね。

柳瀬：はい。これくらいの学年平均を維持できるような学習をしていってもらいたいものです。

織田：しかし問題点もあるのでしょうか？

柳瀬：そうです。

このような平均点にもかかわらず、合計200点以下ない生徒がまだまだいるということですよ。

これはほんとにいけません。

ついでに高校にもいけません。

芳賀：柳瀬先生、えらくズバリ言いますね。

柳瀬：これだけ言っても感じない人がいるんですよ。  
困ったものです。  
ま、勉強というものに魅力を感じてないと言え  
ばそれまでですが、学びは本来楽しいものなの  
ですよ。

こういう話はまた今度ということにして、次い  
ってみましょうか。

織田：はい。ではここからは2年4組のことについて  
若干分析してみましょう。  
学年全体と比較しての2年4組のことについて  
書いてみましょう。

芳賀：あら、〇〇ちゃんがきつと言うわよ。  
「せいせーい、ほかの子と比較したらだめねん  
よ。」ってね。

織田：ま、気にしない。  
ちょっとくらい比べてみましょう。  
そして、お説教よ！ね、柳瀬先生。

柳瀬：そうですね。  
はっきり言って、最近2年4組は「やる気」と  
「元気」はありますが、「根気」がありません  
な。  
何でも積極的に取り組んでいるようですが、じ  
っくりと考えると、じっくりと取り組む姿勢に欠  
けます。  
「やる〜！」「やるぞ〜〜」という気持ちは  
あるのですが、学習、授業、朝自習などにゆっ  
くり静かに取り組む姿勢に欠けてます。  
まあ、一部の人と言ってもいいのですが、しか  
し、その人たちも学級の雰囲気悪くしている  
ので話になりません。

織田：ということで振り返りですね。  
各教科についてはどうですか？

柳瀬：大部分の教科についてはまずまずとっていい  
でしょう。  
たとえば、数学は第1回の実力試験について相  
変わらずいい成績です。  
学習についてのアンケートでも数学が嫌いな人  
は3人で好きな人が6人。まあいい傾向でしょ  
う。

芳賀：なんか、数学嫌いが3人なんて彼らウソついで  
ませんか？

織田：彼らがそんな遠慮するわけないわよ。

柳瀬：積極的なところはいいですが、やはり、中には  
授業中ぐうたらする人がいるんですよ。  
うわさによれば、最前列の「担任の愛の降り注  
ぐ席」でありながら、寝始めるという不届き者  
がいるそうです。

芳賀：〇〇〇〇のことね。

織田：あら、〇〇〇〇もよ。

芳賀：そういえば、〇〇〇〇もあやしいわ。

織田：どうも来月も「担任の愛の降り注ぐ席」になり  
たいようね

なお、しばらくしたら「学習についてのアンケ  
ート」特集を組みたいと思います。

それでもいろいろなことが言えるようですね。  
お楽しみに。

芳賀：ちょっと時間がなくなってきました。

2年4組のことについてはお話を聞く時間がな  
くなってしまいました。

最後になりましたが柳瀬先生はどれくらい学習  
時間が必要とお考えでしょうか？

柳瀬：中学2年生になったら1日2時間の家庭学習は  
最低必要です。本当は3時間と言いたいところ  
ですが、そこまでは要求しません。

学習についてのアンケートのクラス平均値は

1.03時間（1時間と2分弱）でした。

ですが平日0時間の方が7人もいます。話にな  
りませんね。

この7人とテストの平均点との関係を出してみ  
るのもおもしろいかも知れません。

ということで、まずは1日2時間をめざして欲  
しいものです。

織田：次の試験は夏休み明けですが……

柳瀬：そうですね。

次の試験まで間隔があります。

このあとの日常的なとりくみが大きく成績に  
反映されるものと思います。

今回失敗して人は、今度こそは失敗しないでは  
しいものです。ここで失敗を続けていくと、1  
年9か月後に大変なことになります。

織田：このあとの授業、そして夏休みが勝負というこ  
とですね。

柳瀬：その通りです。

今、できるうちに、取り返せるうちにしっかりと  
取り返しておいてほしいものです。

そのためにはしっかりと学習習慣をつける  
こと。

テストが返されてからどうふり返るか、どうや  
り直すかを考えて、取り組むこと。

今日の結論はこれです。

織田&芳賀：柳瀬先生、今日はどうもありがとござ  
いました。